

# 自主防災組織で 災害に強いまちづくり

群馬は地盤が固いから大地震は起こらない。昔からそういわれてきました。しかし、わたしたちの足元には大規模な断層帯が走り、大地震が起こる可能性はゼロではありません。いざというときの備えは、個人の防災対策だけで大丈夫なのでしょうか。

今回は、東日本大震災においてもその働きが注目されている自主防災組織について取材しました。担当は市民編集委員 吉田・杉山。



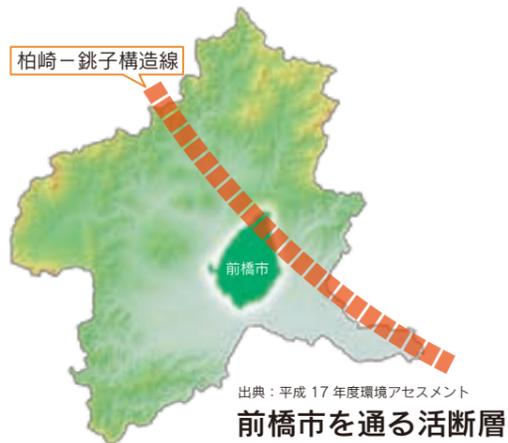
子どもも参加し楽しく訓練

## 自主防災組織の現状

平成7年に起きた阪神・淡路大震災の際、近所の人と助け合う力が大きな力になりました。こうしたことから、地域住民の連帯による防災活動が注目されるようになり、全国で自主防災組織の結成が進みました。

前橋市における自主防災組織の結成は、各自治会の自主性に委ねられています。4月1日現在、市内284自治会のうち、175自治会で自主防災組織が結成され、組織率は61%です。しかし、結成はしたけれど、ほとんど活動していないところもあるのが実情のようです。

問い合わせは 危機管理室 ☎8998-5935



出典：平成17年度環境アセスメント 前橋市を通る活断層

## 先進地区に学ぶ防災活動

自主防災活動を積極的にしている地区の一つに岩神町四丁目自治会があります。平成18年に組織を結成すると、災害時の役割分担を決め定期的に訓練を行っています。

- 主な活動
- 地域防災マップの作成

「なかなか難しいですね」と、自治会長であり自主防災組織会長も務める藍澤慎さんは話します。

訓練の実施や資材の購入など、自主防災組織の活動は、今後、行政との連携をより一層深めていく必要があるのではないのでしょうか。

## ● 広がる取り組みの輪

こうして日ごろから訓練を積んでいても、災害が起こったとき、実際に活動できなければ意味がありません。そのため、組織が形だけのものにならないよう、2年ごとに構成員の見直しを行っています。

また、昨年から、隣接する岩神町三丁目との連携に向けた動きをスタート。個人から町内へ、町内から地区へ、自主防災に対する積極的な取り組みの輪が広がるようとしています。

「視察、大歓迎です。ぜひ、いらしてください。」

## 編集 後記

取材を通して、地域の防災力を高めることの重要性を強く感じました。災害はいつ起こるか分かりませんが、しっかりと訓練を行うことで、防災の意識を高く持ち続けることが大切だと思います。

地域の危険箇所や避難場所、AED（自動体外式除細動器）の設置場所を地図にして各戸に配布。公共機関や病院などの電話番号も掲載しています。

## ● 防災訓練

消防署などと連携し、起震車による地震体験などを実施。バケツリレーなどの消火訓練や炊き出し訓練も行っています。

## ● 救命講習会

心肺蘇生法などの講習。AEDなどを実際に使いながら訓練しています。

## ● 防災講話

市が行っている出前講座などを利用して、身近な防災知識を学んでいます。

## ● 楽しみながらできる訓練を

岩神町四丁目自主防災組織ではこれらの活動を、町の恒例行事として位置付けているのが特徴です。「義務感だけで訓練に参加するのでは、活動の輪は広がらない」と語るのは、総括責任者の鈴木勲さん。そのため、子どもたちも参加しやすいように工夫をしています。



みんなで協力



アルミ製折り畳み式リヤカー

消防士の指導を受けながら



で毎年予算を確保しながら、ヘルメットなどを購入してきました。購入した資料は、点検と取り扱いの訓練を兼ねて、地区のイベントで活用することもあるそうです。そうすることで、災害時に慌てなくなることも期待できます。

「防災力を高めることは重要なことなんですけど、いつ起こるか分からない災害に対する予算を確保するのは、な